

平成 20 年度  
「学生による授業評価」  
報 告 書

平成 21 年 7 月

宮崎大学農学部

## 教育の質の向上を目指して

農学部長  
原田 宏

大学は、本来、「知」の創造と活用、そしてそれを基にした人材養成を担う重要な役割を持っている。そうした観点から見ると、最近のわが国の高等教育は広く社会的要請に答え切れているとは言い難く、本学農学部においても抜本的な改革が求められている。

その課題の一つとして、学位授与へ導く体系的教育とその質の向上があげられる。すなわち、今日のようにユニバーサル化された大学にあって、学生自体の考え方、ライフスタイル、講義に対する姿勢等々は大きく変わってきている。また、少子化～進学率の増加に伴う学生の平均的な学力水準の低下への批判が大学の内外で指摘されている。しかし、実際に彼らを指導するという職務を持つ我々にとって、批判しているだけでは何ら問題は解決しない。この現状を乗り越えるための試みが種々工夫されているが、まずは、我々が、彼らに歩み寄ることも、解決策のひとつではないかと思われる。

いま一つの課題として、教育の責任体制の確保がある。すなわち、高等教育の質の向上には、教員の資質向上が不可欠なのである。法人化以降、教育組織の、そして教員個人の評価が日常化してきており、自己点検評価にとどまらず、第三者の意見も聴取した教育活動の評価等を通して、教育の質を保証していくことが明確に問われている。そんな現実がある一方で、「なんでFDなのか」、と今でも考えられている教員も少なからずいると思われる。しかし、教員相互の評価がタブーとなっていること自体が、教育の質の向上を鈍らせていることも現実である。

入学生がモチベーションを持続できるように働きかけ、基礎・基本をしっかりと習得できるようにしたり、知的好奇心・探求心を身に付けさせることによって「生きる力」としての学力の質を向上させる方向に歩むことから実現できればと願っています。

FDを「学部/大学全体で行う共同作業」と考えておられる方は多いように思われるが、基本的には個別の講義における個人個人の改善工夫の積み重ねによって支えられるものであろう。その方策は、個人の資質や価値観、性格等によって異なって当然であるが、こうした個人ベースの改善を、正当な評価の下で、積極的にかつ効率的に行えるように、学部/大学がバックアップできる体制を整備しておくことも不可欠であると考えています。

また、これまで研究に重点が置かれてきた業績評価のまま、教育改善に努力しても正当な評価がなされないなら、教育現場としての大学本来の使命を失うことにもなりかねない。このような点を改善するためにも、学生を含めた第三者による教育評価は重要な作業の一つであると考えている。

目 次

	ページ
1. 授業評価実施の方法	3
2. 評価結果の集計および表示	4
3. 学士課程における授業評価結果	5
A. 食料生産科学科	5
B. 生物環境科学科	7
C. 地域農業システム学科	9
D. 応用生物科学科	11
E. 獣医学科	13
4. 大学院修士課程における授業評価結果	16
A. 生物生産科学専攻	16
B. 地域資源管理科学専攻	17
C. 森林草地環境科学専攻	18
D. 水産科学専攻	19
E. 応用生物科学専攻	20
5. 授業評価の総括	22
資料（調査票）	23

## 1. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教員が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあっては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教員が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることができる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教員が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教員へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

## 2. 評価結果の集計および表示

平成20年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

### (1) 学士課程

- ① 本年度は昨年同様学科単位で講義の内容及び規模別にとりまとめる方針とした。
- ② 区分する項目は以下の内容とする。
  - (1) 実験
  - (2) (フィールド) 実習
  - (3) 講義――小規模 (40名未満)  
                  中規模 (40～59名)  
                  大規模 (60名以上)
- ③ 講義については担当教員数による区分を考慮する。
  - (1) 単独
  - (2) 2～4人 (1人4～7コマ)
  - (3) 5人以上 (1人3コマ)
- ④ 質問4の私語への注意については、「5:していた。(「そのような私語などはなかった。」を含む)」の百分率で示した。
- ⑥ 質問14と15の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習した」の百分率で示した。

### (2) 大学院修士課程

- ① 学生による授業評価のアンケート調査を質問1から質問15について実施し、項目ごとに集計した。
- ② 質問13～15の予習・討議への参加・自主学習に関する質問については、「5:した(または、そう思う)」と「4:少しした(または、どちらかというと思う)」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「討議に参加した」の百分率で示した。
- ③ 集計の結果から教員が特定できないように、教員をアルファベットで表記し、その配列は順不同とした。

### 3. 学士課程における授業評価結果

#### A. 食料生産科学科

##### (1) 講義

授業方法および講義の内容に関する項目については、前年度と同様各項目において高い値が得られており、学生の満足度は高かったと考えられる。講義規模(学生数)による差は、いずれの項目においても顕著ではなかった。担当教員数による差は、規模大の2-4名担当の科目において、内容に関する項目で低い評価がいくつか見られたものの、これはある特定の講義において低い値であったためであり、全体的な傾向として認められたものでは無かった。いずれにしても当該授業科目については、授業内容の改善が求められる。

講義の内容については概ね高い結果を得ていたのに対して、学生自身の学習態度に関する項目については総じて低い結果となった。特に、「質問13：自主的に調べたことがある」という項目では26.56%と全質問項目の中で最も低い結果となった。「質問7：講義に興味を持てた」の項目では高い結果であったことから、講義に興味を持つものの自主的に調べるまでには至っていないようである。参考文献の例示など学生の自主学習を誘導するような方法を今後より工夫していく必要がある。

表1-1 食料生産科学科の集計結果(講義)

(%)

質問番号	質問内容	選択肢	小規模(40名未満)			中規模(40~59名)			大規模(60名以上)		
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上
	受講生数										
	教員数										
	「この授業方法に関する項目」										
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	95	92		85	100		86	77	79
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	95	76		86	94		89	91	90
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	88	96		93	96		85	87	81
質問4	私語などを注意していた	5)	98	96		93	89		88	91	82
	平均(1-4)		94	90		89	95		87	86	83
	「講義の内容に関する項目」										
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	81	88		86	76		85	82	74
質問6	講義の目標は理解できた	5)	98	92		92	93		93	92	83
質問7	講義に興味を持てた	5)	95	100		89	89		91	83	87
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	92	100		89	94		88	89	84
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	97	96		96	100		96	96	91
質問10	説明は理解しやすかった	5)	95	96		86	91		90	69	83
質問11	難易度は適切であった	5)	83	100		82	78		83	67	76
質問12	内容の量は適切であった	5)	89	84		76	87		81	82	85
	平均(5-12)		91	95		87	89		88	82	83
	「学生自身の学習態度に関する項目」										
質問13	自主的に調べたことがある	5)	50	56		31	26		40	27	37
質問14	予習した	5)と4)	57	96		65	44		55	49	53
質問15	復習した	5)と4)	77	84		76	72		80	83	61
	平均(13-15)		62	79		57	47		58	53	50
	平均(1-15)		87	90		82	83		83	78	77

表1-2 食料生産科学科の講義規模および担当教員数別講義科目数

教員数	講義科目数		
	小規模(40名未満)	中規模(40~59名)	大規模(60名以上)
単独	9	8	13
2~4人	1	1	4
5人以上	1	0	4

(2) 実験・実習

実験・実習については不満回答について集計を行ったが、質問項目の中で最も不満が多かったものは、「質問2：時間設定」であった。これはあるひとつの実験科目においてのみ不満とした回答が突出して多かったためであり、原因として、当該実験は7・10限に実施されているが5・6限に選択できる適当な科目がないために学生にとっては空きコマができてしまうこと、配当時間を超えて実験が実施された場合があること、が考えられた。学生には課外活動・アルバイトに支障を来す可能性があることを十分通知する必要があると同時に、教員側としても実施時限の見直しや終了見込み時刻の予告などを工夫すべきであると考えられる。時間設定以外の質問項目に関しては、各項目において不満とした回答は少なく、概ね満足されているものと考えられる。

表1-3 食料生産科学科の集計結果(実験・実習) (%)

			実験	実習
実験・実習科目数			6	4
各科目の平均担当教員数			4	11
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0	1
質問2	時間設定	1)と2)	16	3
質問3	配布資料	1)と2)	0	1
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	0
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	0
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	0
質問7	教員としての熱意	1)と2)	2	0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	6	0
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	1	3
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	3	2
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	2	3
質問13	レポートの評価	1)と2)	2	1
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	0
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	1
平均(1-15)			2	1

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

## B. 生物環境科学科

集計結果は講義科目と実験実習に分けて取り扱った。また講義科目については教員数と受講生の規模別に9グループに分けて分析した。

### (1) 講義

H20年度の講義規模および担当教員数別講義科目数の集計結果を表2-1に示す。授業評価が行われた59科目のうち小規模（40名未満）のクラスを単独で担当している科目数が25科目（42%）と最も多く、中規模の科目では複数教員で担当している科目はなかった。大規模の科目では単独、2～4人および5名以上で担当している科目がそれぞれ8科目、8科目、4科目であった。

表2-1 生物環境科学科の講義規模および担当教員数別講義科目数

		講義科目数		
		小規模(40名未満)	中規模(40～59名)	大規模(60名以上)
教員数	単独	25	11	8
	2～4人	1	0	8
	5人以上	0	0	4

講義の授業評価の集計結果を表2-2に示した。質問1から4は講義方法に関する項目、質問5から12は講義内容に関する項目、質問13から15は学生の学習態度に関する項目となっている。表における数値は、それぞれの質問項目について満足度が高いと答えた回答数を百分率で表したものである。

いずれの質問項目においても、授業規模（学生数）による大きな差は見いだせないものの小規模（40名未満）の講義において満足度が高く、規模が大きくなるに従って満足度が低くなる傾向がみられた。単独の教員が担当する科目においては授業方法に関する項目に対して8割以上の高い満足度が得られていた。予習と復習については、規模や教員数に関わらず予習する割合が復習する割合に比べて低かった。最も評価の低かった質問は、過去の調査結果と同様に「質問13：自主的に調べたことがある」であった。自主的に調べたことがある学生の割合は46%と昨年（45%）、一昨年（41%）に比べ増加しているため、今後とも学生が自主的に調べるよう指導を継続することが必要であると考えられる。

また、複数教員の担当する大規模（60名以上）の講義について「質問5：シラバスはわかりやすかった」に対する満足度が62%と他の規模に比べ、低くなっていた。



表2-2 生物環境科学科の集計結果(講義)

(%)

質問番号	質問内容	選択肢	小規模(40名未満)			中規模(40~59名)			大規模(60名以上)		
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上
受講生数											
教員数											
「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	92	100		94			83	75	85
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	92	87		94			86	75	80
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	89	87		85			85	73	78
質問4	私語などを注意していた	5)	93	100		92			92	85	87
平均(1-4)			92	93		91			87	77	82
「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	90	92		89			84	62	62
質問6	講義の目標は理解できた	5)	92	89		92			87	78	80
質問7	講義に興味を持てた	5)	90	89		89			89	73	86
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	90	89		90			91	78	83
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	95	95		95			95	88	86
質問10	説明は理解しやすかった	5)	88	89		88			83	66	80
質問11	難易度は適切であった	5)	80	87		86			75	57	71
質問12	内容の量は適切であった	5)	83	87		84			84	65	81
平均(5-12)			88	90		89			86	71	78
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	5)	45	53		43			60	40	48
質問14	予習した	5)と4)	66	82		69			72	54	59
質問15	復習した	5)と4)	82	92		81			87	72	74
平均(13-15)			64	75		64			73	55	60
平均(1-15)			85	88		85			84	69	76

## (2) 実験・実習

実験・実習ともに、すべての質問の平均値で見ると不満は2%と小さいことがわかる。質問ごとにみると、最も不満が多かった質問は、「質問11: レポートの書き方指導」であった。また、「質問12: レポートの考察や学習課題への助言」や「質問4: 実習に関する説明」についても不満を感じている学生が見られるため、実験・実習ともに実施内容やレポートに対する説明と指導を十分に行う必要があると考えられる。また、昨年まで最も不満が多かった「質問2: 時間設定」への不満はガイダンスなどで十分な説明をおこなったため減少した。

表2-3 生物環境科学科の集計結果(実験・実習)

(%)

			実験	実習
実験・実習科目数			9科目	20科目
各科目の平均担当教員数			4人	3人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	1	1
質問2	時間設定	1)と2)	2	5
質問3	配布資料	1)と2)	2	3
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1	4
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1	2
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	2	1
質問7	教官としての熱意	1)と2)	1	1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	1
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	1	1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	3	6
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	2	4
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	2
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1	2
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	0
平均(1-15)			1	2

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

## C. 地域農業システム学科

### (1) 対象科目数および受講（アンケート回答）学生数

学科専門基礎科目と専門科目の本学科教員担当科目 68 科目中、88%にあたる 60 科目でアンケートを実施した。このうち、講義規模別および担当教員数別の講義科目数（実験・実習を除く）を表 3-1 に示した。教員一人が単独で担当した講義科目が 44 科目（92%）、複数の教員が分担して担当した講義科目が 4 科目（8%）、小規模（受講生 40 名未満）の科目は 34 科目、中規模（受講生 40～59 名）の科目は 12 科目、大規模（受講生 60 名以上）の科目は 2 科目であった。地域農業システム学科ではアンケート集計科目の半数以上が「教員一人が単独で担当した受講生 40 名未満の講義科目」に分類された。

表3-1 地域農業システム学科の講義規模および担当教員数別講義科目数

		講義科目数		
		小規模(40名未満)	中規模(40～59名)	大規模(60名以上)
教員数	単独	32	10	2
	2～4人	2	2	0
	5人以上	0	0	0

### (2) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 3-2 に示した。

#### 講義方法について

講義の聞き取りやすさやスピードなど、講義方法に関してはどのグループも概ね 80%以上の受講生が満足だと感じており、全体として大きな問題は無いものとする。また H18 年度の集計において課題として挙げられた大規模・単独教員による講義での視聴覚機器の使用法について、学生の満足度が H18 年度の 68%から H19 年度は 77%、H20 年度は 82%まで上昇しており、改善努力が結果としてあらわれている。しかし、小規模を 2～4 人で担当している講義では学生による評価が 70%台であり、講義方法の改善努力が必要である。

#### 講義内容について

講義内容について、どのグループも概ね 80%以上の受講生が満足だと感じており、全体としては大きな問題はない。しかし、小規模と中規模において 2～4 人で担当している講義ではシラバスと難易度、内容の量に不満が多く、担当教員が連携して改善努力をする必要がある。

#### 学生自身の学習態度に関する項目

学生自身の学習態度については、「復習した」69～82%よりも「自主的に調べたことがある」28～47%や「予習した」57～66%は低く、学生は受け身な学習態度となっており、主体的に学習する態度を身につけさせる工夫が必要である。

表3-2 地域農業システム学科の集計結果(講義)

(%)

質問番号	質問内容	選択肢	小規模(40名未満)			中規模(40~59名)			大規模(60名以上)		
			単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上
受講生数											
教員数											
「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	88	87		87	91		97		
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	89	88		90	87		93		
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	89	62		83	81		82		
質問4	私語などを注意していた	5)	93	70		90	90		83		
平均(1-4)			<b>90</b>	<b>77</b>		<b>87</b>	<b>87</b>		<b>89</b>		
「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	81	73		80	68		85		
質問6	講義の目標は理解できた	5)	89	90		88	77		94		
質問7	講義に興味を持てた	5)	85	95		83	74		86		
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	89	95		88	95		89		
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	95	85		95	95		98		
質問10	説明は理解しやすかった	5)	80	87		81	82		93		
質問11	難易度は適切であった	5)	71	58		73	60		68		
質問12	内容の量は適切であった	5)	82	66		86	79		89		
平均(5-12)			<b>84</b>	<b>81</b>		<b>84</b>	<b>79</b>		<b>88</b>		
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	5)	47	32		38	32		28		
質問14	予習した	5)と4)	66	56		63	60		57		
質問15	復習した	5)と4)	81	69		78	75		82		
平均(13-15)			<b>65</b>	<b>52</b>		<b>60</b>	<b>55</b>		<b>56</b>		
平均(1-15)			<b>82</b>	<b>74</b>		<b>80</b>	<b>76</b>		<b>82</b>		

### (3) 実験・実習

実験・実習については、講義における集計とは逆に学生による満足度が低い回答について集計し、集計結果を表3-3に示した。全ての項目において不満足と回答した学生数は5%を下回り、学生は概ね満足していることがわかった。ただし、「教員としての熱意」と「機械・器具の配分」、「TAの指導補助」についての不満がみられ、また学生から寄せられたコメントによると実験・実習の実施環境の不備から「教員としての熱意」に不満を抱いているようである。そのため、今後も実験・実習の実施環境の整備や実施方法の改善努力が必要である。

表3-3 地域農業システム学科の集計結果(実験・実習)

(%)

質問番号	質問内容	選択肢	実験	実習
			8科目 4人	4科目 6人
実験・実習科目数				
各科目の平均担当教員数				
質問1	シラバス	1)と2)	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	0	2
質問3	配布資料	1)と2)	0	0
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	0
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	0
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	1	0
質問7	教員としての熱意	1)と2)	2	1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	1
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	2	1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	2	0
質問12	レポートの考察や学習課題への	1)と2)	0	0
質問13	レポートの評価	1)と2)	1	0
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1	0
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1	1
平均(1-15)			<b>1</b>	<b>0</b>

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

## D. 応用生物科学科

### (1) 講義

応用生物科学科専門科目ならびに応用生物科学科教員が担当している講義科目について、講義規模別および担当教員数別の講義科目数を表 4-1 に示した。

小規模（受講生 40 名未満）の講義を単独で担当している科目は 6 科目（13%）、複数人数で担当している科目はなかった。中規模（受講生 40～59 名）の講義を単独で担当している科目は 5 科目（11%）、2～4 人で担当している科目が 2 科目（4%）、5 人以上で担当している科目が 5 科目（11%）であった。大規模科目（受講生 60 名以上）の講義を単独で担当している科目は 23 科目（59%）、2～4 人で担当している科目が 4 科目（9%）であった。応用生物科学科では大規模の講義を単独で担当しているケースが半数以上を占めていた。

表4-1 応用生物科学科の講義規模および担当教員数別講義科目数

		講義科目数		
		小規模(40名未満)	中規模(40～59名)	大規模(60名以上)
教員数	単独	6	5	23
	2～4人	0	2	4
	5人以上	0	5	0

講義の授業評価の集計結果を表 4-2 に示した。

#### 「授業方法に関する項目」

質問 1～4 の評価の授業の方法に関する項目の平均を見てみると、講義規模や担当教員数に関わらず、80%以上から良好な評価を得ていると言える。

#### 「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得ている。質問 1 1 の難易度に関する質問で 70%を下回るケースが見られるが、これは講義によって難易度が高いと感じられるものがあつたことに起因している。応用生物科学に関する技術者教育を行う上で、一定レベルの教育内容を維持する必要があるため、今後もよりいっそう理解しやすい講義になるよう工夫することで対応したい。質問 9 の授業内容の準備に関する良好な回答が概ね 90%程度以上であり、講義に対する教員の努力が伺える。

#### 「学生自身の学習態度に関する項目」

質問 1 3 の自主的に調べたことがあると答えた学生は講義規模および担当教員数別にみると 34%～79%となっているが、中規模担当教員数 5 人以上という関係教員で担当する講義科目で高い割合を占めている。これらの科目には入門セミナーII などが含まれる。予習を行っている学生は講義規模および担当教員数別にみると 56%～73%、復習を行っている学生は 62 %～82%であり、それほど低い割合ではないが、さらに予習しやすい環境を整えることや予習や復習の習慣を身につけさせる工夫が必要であろう。

		小規模(40名未満)			中規模(40~59名)			大規模(60名以上)			(%)
受講生数		単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	単独	2~4人	5人以上	
教員数											
質問番号	質問内容	選択肢									
「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	78		79	78	94	81	88		
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	92		87	92	94	82	83		
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	85		85	79	94	82	89		
質問4	私語などを注意していた	5)	93		93	84	91	88	90		
平均(1-4)			87		86	83	93	84	88		
「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	92		90	88	93	83	83		
質問6	講義の目標は理解できた	5)	91		90	84	95	87	86		
質問7	講義に興味を持てた	5)	87		86	73	95	83	80		
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	92		93	85	91	88	84		
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	93		94	91	92	88	92		
質問10	説明は理解しやすかった	5)	86		82	64	90	78	82		
質問11	難易度は適切であった	5)	65		74	61	76	69	70		
質問12	内容の量は適切であった	5)	74		78	80	90	73	72		
平均(5-12)			85		86	78	90	81	81		
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	5)	50		44	40	79	34	39		
質問14	予習した	5)と4)	56		65	59	68	62	73		
質問15	復習した	5)と4)	83		83	79	62	78	85		
平均(13-15)			63		64	60	70	58	66		
平均(1-15)			81		81	76	87	77	80		

## (2) 実験の授業評価の集計結果

実験の授業評価の集計結果を表4-3に示した。

ここでの集計は実験に対する不満に関する集計である。平均的には大きな不満はないように見受けられる。時間設定についての不満が他の項目に比べてやや高い割合を示しているが、昨年度の5%からはわずかにではあるが減少している。また、機器・器具の配分に関する不満の割合は昨年度の4%から1%に低下しているため、ガラス器具等の配分や機材に関する説明を教員側がしっかり行うことで、ある程度の理解を得られたのであろう。

			(%)	
			実験	実習
実験・実習科目数			12科目	
各科目の平均担当教員数			3人	
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	1	
質問2	時間設定	1)と2)	4	
質問3	配布資料	1)と2)	0	
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1	
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	1	
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0	
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	2	
質問12	レポートの考察や学習課題への助	1)と2)	2	
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1	
平均(1-15)			1	

注: 1)は非常に不満, 2)はやや不満

## E. 獣医学科

集計結果は講義科目と実験・実習に分けて取り扱った。講義科目については教員数と受講生の規模別に3グループに分けて分析した。

### (1) 講義

前・後期あわせて34(単独31、複数3)の講義について回答を得た。獣医学科は30名であるので、小規模講義であるが、他の学科との合同講義の場合は中規模講義となる。小規模単独は講義33あり、平均受講生数29名、中規模単独講義は2あり、平均受講生数45名、大規模単独講義については、今回はアンケート提出がなかった。

#### 「この授業方法に関する項目」

については“質問1-3”は一応高い値を示し、学生は授業に対して満足していると思われる。また、“質問4：私語などを注意していた”は昨年度より高い値を示し、教員の改善の努力が伺える。中規模広義では“質問4”を除き、全般に値が低かった、改善が必要と思われる。

#### 「講義の内容に関する項目」

については、小規模講義に置いて、“質問11：難易度は適切であった、質問12：内容の量は適切であった”がやや低いが、これも、一昨年、昨年に比して格段に高くなっており、教員の改善努力がこれも伺える。中規模講義では全般的に低く改善が求められる。

#### 「学生自身の学習態度に関する項目」

では、半数近くの学生が、予習・復習を行い、自主的な学習を行っており、昨年度より高くなっている。満足すべきであろう。

表5-1 獣医学科集計結果(講義)						(%)
受講生数		小規模(40未満)		中規模(40-60)	平均	
教員数(講義数)		単独(29)	複数(3)	単独(2)		
受講生数		29	31	46		
アンケート数		29	30	46		
教員数		1	4	1		
質問番号	質問内容	選択肢				
「この授業方法に関する項目」						
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	93	96	48	79
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	89	93	57	80
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	89	93	41	74
質問4	私語などを注意していた	5)	93	96	82	90
平均(1-4)			93	94	57	81
「講義の内容に関する項目」						
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	86	90	56	77
質問6	講義の目標は理解できた	5)	98	86	59	81
質問7	講義に興味を持てた	5)	98	83	83	88
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	93	86	67	82
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	98	96	91	95
質問10	説明は理解しやすかった	5)	93	83	63	80
質問11	難易度は適切であった	5)	79	80	52	70
質問12	内容の量は適切であった	5)	82	83	46	70
平均(5-12)			91	86	67	81
「学生自身の学習態度に関する項目」						
質問13	自主的に調べたことがある	5)	68	68	52	63
質問14	予習した	5)と4)	78	78	52	69
質問15	復習した	5)と4)	86	86	74	82
平均(13-15)			77	77	58	71
平均(1-15)			88	86	62	79

## (2) 実験・実習

前・後期あわせて21(実験4、実習17)の実験・実習、平均受講生数31名について回答を得た。

講義とは異なり、実験・実習に対する不満度(1)は非常に不満、(2)はやや不満)について調べた。

昨年度に比して、全体的に実習に対する不満度が少なくなっており、改善の効果があつたものと考えられる。

“質問2:時間設定”に昨年同様、不満度があるが、生きた動物を扱う上では時間をきちんと設定することは困難である。学生もこの点は理解してほしい。“質問4:実習に関する説明”、“質問5:機械・器具の使用法の説明”については、実験・実習ともやや不満度がある。改善すべき箇所と思われる。

実験での“質問4.5”の不満度は実習と同じだが、昨年特に不満度が高かつた質問7が、改善されている。教員の改善努力が伺える。“質問9”は実験・実習とも不満度が高いが、高額機器が多いため、予算の関係上仕方ないが、何か工夫をこらしたい。

表5-2 獣医学科の集計結果(実験・実習)					(%)
			実習(17)	実験(4)	平均
	受講生数		30	31	31
	教員数		1	1	1
質問番号	質問内容	選択肢			
質問1	シラバス	1)と2)	0	0	0
質問2	時間設定	1)と2)	1	0	1
質問3	配布資料	1)と2)	0	1	1
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1	1	1
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1	1	1
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	0	0
質問7	教官としての熱意	1)と2)	0	0	0
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	0	0
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1	1	1
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0	1	1
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	0	0	0
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	0	0	0
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	0	0
質問14	実験技術の向上	1)と2)	0	0	0
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	0	0
平均(1-15)			1	0	1

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満



## 4. 大学院修士課程における授業評価結果

### A. 生物生産科学専攻

講義の内容に関する項目では各項目で概ね高い値が得られており、講義自体に対する満足度は高いと考えられた。しかしながら、授業方法に関する項目での「質問2：視聴覚機器は適切であった」という項目に対しては、極端に低い値が散見された。これは少人数による実施のためにパワーポイント、マイクなどの機器を使用しなかったためであると考えられ、今後改善する必要があると考えられる。また、学生自身の学習態度に関する項目においても、数名の教員の講義において、「質問13:予習した」で極端に低い値が見られた。

表6 生物生産科学専攻の集計結果(教員別)

(%)

質問番号	質問内容	担当教員											教員平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
「授業方法に関する項目」													
質問1	講義のスピードは適切だった	75	100	100	100	100	100	100	100	89	80	100	95
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	100	20	50	0	0	67	83	89	100	67	61
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	83	98
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	92	100	100	100	99
平均(1-5)		95	100	84	90	80	80	93	95	96	96	90	91
「講義の内容に関する項目」													
質問6	シラバスはわかりやすかった	75	100	80	100	60	40	100	83	78	70	67	78
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100	89	100	100	99
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	80	100	100	100	100	90	100	97
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	70	100	97
質問10	難易度は適切であった	100	100	100	100	80	100	100	92	67	50	83	88
質問11	内容の量は適切であった	75	100	100	100	100	100	100	75	56	100	83	90
質問12	有益な情報や示唆を与えた	75	100	100	100	100	100	100	92	100	90	100	96
平均(6-12)		89	100	97	100	89	91	100	92	84	81	90	92
「学生自身の学習態度に関する項目」													
質問13	予習した	50	0	100	50	80	100	100	17	44	60	100	64
質問14	討議などに積極的に参加した	50	100	80	100	60	100	100	50	78	60	83	78
質問15	さらに学習を深めたいと思った	100	100	100	100	60	100	100	92	89	60	83	89
平均(13-15)		67	67	93	83	67	100	100	53	70	60	89	77
回答者数		4	3	5	4	5	5	3	12	9	10	6	6

## B. 地域資源管理科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとに学生の受講満足度を集計した。本年度は退職教員が4名いたこともあるが、資料は3教員3科目のみである。本専攻での昨年度も6と少ないのには専攻生の数が少数であることにも調査を実施していない理由があることも考えられる。母数がある程度大きくないと特に%で表現する意味に疑問を感じる。

H20年度の集計結果を表に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。集計結果の概要は以下のとおりである。

数が少ないので専攻全体について述べることはできないが、この結果から留意すべきことで授業方法、講義の内容に関する項目で0%が3項目あり、その内容はスピードが速すぎる、難しい、量が多いというもので、これらは教員が謙虚に対応すべき事項と考える。

一方、学習態度に関する項目を見ると3項目いずれの結果も自ら学び学習していくという意欲が全く見られない。何をするために専攻に進学したか疑問も感じられる。

		担当教員			(%)
質問番号	質問内容	A	B	C	教員平均
「授業方法に関する項目」					
質問1	講義のスピードは適切だった	100	0	100	67
質問2	視聴覚機器は適切であった	75	100	100	92
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100
質問4	授業の形態は適切であった	100	80	100	93
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100
平均(1-5)		95	76	100	90
「講義の内容に関する項目」					
質問6	シラバスはわかりやすかった	75	100	67	81
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100
質問8	講義に興味を持てた	100	60	100	87
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	100	100
質問10	難易度は適切であった	100	0	100	67
質問11	内容の量は適切であった	100	0	100	67
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100
平均(6-12)		96	66	95	86
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	予習した	0	60	0	20
質問14	討議などに積極的に参加した	25	20	33	26
質問15	さらに学習を深めたいと思った	75	20	0	32
平均(13-15)		33	33	11	26
回答者数		4	5	3	4

## C. 森林草地環境科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとの学生の受講満足度を集計した。講義課目担当教員（教授、准教授、助教）を対象として、15 質問項目について集計した。なお、複数教員で担当されている科目のアンケート結果も、集計に加えた。森林科学分野について複数教員担当科目のアンケート結果が紛失しているため除外した。

H20年度の集計結果を表8に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。「担当教員 N」は領域共通科目であり、複数教員が担当している。集計結果の概要は以下のとおりである。

すべての項目ごとの平均点で、昨年 H19 年度の満足度を上回っており、講義内容が順調に改善されていることがうかがえる。また、すべての質問内容で 80%以上の学生が満足しており、特に質問 3~5、7~9、12 については、ほぼ 100%の学生が満足していた。

最も満足度が低かった質問は「質問 1：講義のスピードは適切であった」であり、ついで「質問 10：内容の量は適切であった」、「質問 14：討議などに積極的に参加した」であった。すなわち、質問 3,4 や 7, 8, 9 のように、教員の講義に対する準備ならびに学生の興味を引くことに関して満足度が高く、講義中に学生の理解度を確認すること、学生の討議への参加を促すことについて改善の余地があると考えられた。質問 1 に関しては全教員に対して 80%以上の満足度であるものの、H19 年度の 94%から満足度が唯一低下している。大学院講義の質を維持しながら速度、難易度を下げることが容易ではないが、質問 10, 11 とあわせ検討が必要である。また、質問 14 に関しては H18 年度が 56%、H19 年度が 63%、本年度 84%と年々上昇しており、学生の討議への参加を促す各教員の工夫が実を結んでいる。

表8 森林草地環境科学専攻の集計結果(教員別) (％)

質問番号	質問内容	担当教員(森林科学)							担当教員(草地環境科学)							教員平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
「授業方法に関する項目」																
質問1	講義のスピードは適切だった	80	80	80	80	80	80	80	80	80	100	80	80	80	80	81
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	100	76	95	85	100	100	80	100	100	100	100	100	100	95
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	97	100
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均(1-5)		96	96	91	95	93	96	96	92	96	100	96	96	96	95	95
「講義の内容に関する項目」																
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	100	88	100	100	100	100	80	100	100	100	100	100	77	96
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問9	説明は理解しやすかった	100	100	100	100	100	98	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問10	難易度は適切であった	88	85	84	85	80	88	84	93	87	100	87	80	80	80	86
質問11	内容の量は適切であった	80	80	84	80	80	86	84	80	80	100	87	85	80	83	83
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均(6-12)		95	95	94	95	94	96	95	93	95	100	96	95	94	91	95
「学生自身の学習態度に関する項目」																
質問13	予習した	77	80	92	80	95	86	92	100	93	93	93	75	100	100	90
質問14	討議などに積極的に参加した	72	90	76	75	95	80	88	93	100	60	73	80	100	94	84
質問15	さらに学習を深めたいと思う	92	100	96	95	95	94	96	100	93	67	87	70	100	98	92
平均(13-15)		80	90	88	83	95	87	92	98	95	73	84	75	100	97	88
回答者数		6	4	5	4	4	10	13	3	3	3	3	4	3	8	5

## D. 水産科学専攻

大学院修士課程の講義については、担当教員ごとの学生の受講満足度を集計した。講義課目担当教員（教授、准教授、助教）を対象として、15 質問項目について集計した。なお、複数教員で担当されている科目のアンケート結果も、集計に加えた。

H20 年度の集計結果を表に示す。表中では各教員がアルファベットで表記されている。「担当教員 I」は領域共通科目であり、複数教員（関係教員）が担当している。集計結果の概要は以下のとおりである。

「授業方法に関する項目」ならびに「講義の内容に関する項目」において、項目ごとの平均満足度は昨年 H19 年度の時点で既に各 95%・91%となっていた。本年度の結果はこれをさらに数点上回っており、講義内容が順調に改善されていることがうかがえる。また、難易度以外のすべての質問内容で 90%以上の学生が満足したと回答し、特に質問 3-5、7-9 については、ほぼ 100%の学生が満足していた。唯一満足度の比較的lowかった「質問 10：難易度は適切であった」については、科目ごとに 1-4 名の学生が「難しかった」と回答しており、難易度が高すぎると判断されている傾向にある。水産科学分野の学問領域がごく広いと、受講学生が必ずしも十分な基礎知識をもっていない傾向を反映したものと考えられるが、専門性を高めると共に多様な学生を受け入れられるよう検討が必要である。ただし、この項目についても前年度比で 3%の改善となっている。

「学生自身の学習態度に関する項目」では、3 質問項目全てにおいて前年度比で数%の低下がみられる。4 科目で 50%以下の数値がみられるが、これらの科目において、予習・討議への参加など、学生の意欲向上を促すための方策導入の余地があると考えられる。

表 水産科学専攻の集計結果(教員別)

質問番号	質問内容	担当教員									教員平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	
「授業方法に関する項目」											
質問1	講義のスピードは適切だった	100	100	100	100	86	100	100	83	80	94
質問2	視聴覚機器は適切であった	100	75	100	90	100	60	100	100	100	92
質問3	配布資料は役に立った	100	100	100	100	86	100	100	100	100	98
質問4	授業の形態は適切であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
質問5	教員の対応は丁寧であった	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
平均(1-5)		100	95	100	98	94	92	100	97	96	97
「講義の内容に関する項目」											
質問6	シラバスはわかりやすかった	100	88	90	100	71	80	88	100	90	90
質問7	講義の目標は理解できた	100	100	100	100	86	100	100	100	100	98
質問8	講義に興味を持てた	100	100	100	100	86	100	100	100	100	98
質問9	説明は理解しやすかった	100	88	100	100	100	100	100	100	100	99
質問10	難易度は適切であった	100	50	100	80	100	60	75	50	80	77
質問11	内容の量は適切であった	100	100	100	80	86	80	100	100	80	92
質問12	有益な情報や示唆を与えた	100	100	90	90	100	80	100	100	100	96
平均(6-12)		100	89	97	93	90	86	95	93	93	93
「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	予習した	100	13	100	70	100	80	25	50	80	69
質問14	討議などに積極的に参加した	83	63	90	80	100	40	63	100	90	79
質問15	さらに学習を深めたいと思った	83	100	100	90	71	80	88	100	90	89
平均(13-15)		89	58	97	80	90	67	58	83	87	79
回答者数		6	8	10	10	7	5	8	6	10	8

## E. 応用生物科学専攻

各講義の授業評価回答者数は5名から26名であり、平均は13名であった。

講義の授業評価の集計結果

「授業方法に関する項目」

質問1、3、4、5においては、約90%から良好な評価を得ている。質問2の視聴覚機器に関する良好な評価は75%であるが、これは視聴覚機器を使用しない講義形態をとっている教員が複数名いるためであり、修士課程の小規模講義として大きな問題はないと考えられる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得ている。質問10の難易度に関する良好な評価は75%であるが、これは学部の講義のよりも難易度の高い講義であることに起因するものと考えられる。理解しやすい説明を心がけることは必要であるが、講義内容の難易度を変えることが適切であるとは一概には言えない。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13の予習に対する良好な評価は61%であるが、講義ごとにみると0~100%と講義ごとに大きなばらつきがある。これは講義の実施形態により大きな影響を受けていることが考えられる。講義の実施形態が多様であることは、受講生の能力を高めることに役立つことが考えられ、実施形態については必ずしも画一化や変更が必要とは言えない。参考資料の周知や事前配布資料の作成など、受講生が学習しやすい環境を整える工夫は必要と考えられる。

質問14の質問、発言、討議など授業への積極的な参加に対する良好な評価は55%にとどまっているが、講義ごとにみると16%~100%とこの質問項目も講義ごとに大きなばらつきがある。討議の時間を設けている講義では、討議に積極的に参加させるような工夫、また、それ以外の講義でも学生の発言を促すような方策を検討して欲しい。

質問15のさらに学習を深めたいという項目の良好な評価は84%であり、修士課程の講義が学生にさらなる興味を引き出させる契機となっていることが伺える。

質問番号	質問内容	担当教員														教員平均
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
「授業方法に関する項目」																
質問1	講義のスピードは適切だった	88	100	88	82	100	90	82	100	80	100	100	100	80	100	92
質問2	視聴覚機器は適切であった	27	79	38	88	100	65	36	100	100	60	100	67	87	100	75
質問3	配布資料は役に立った	92	84	75	100	92	60	73	100	100	60	100	100	100	100	88
質問4	授業の形態は適切であった	88	84	75	100	100	75	64	100	100	100	100	100	93	100	91
質問5	教員の対応は丁寧であった	88	74	75	88	92	80	45	100	100	100	90	100	93	100	88
	平均(1-5)	77	84	70	92	97	74	60	100	96	84	98	93	91	100	87
「講義の内容に関する項目」																
質問6	シラバスはわかりやすかった	96	63	88	82	92	85	73	100	100	100	100	100	93	100	91
質問7	講義の目標は理解できた	96	79	75	88	85	60	100	100	100	60	100	100	87	100	88
質問8	講義に興味を持てた	96	74	75	94	100	80	100	100	100	90	100	93	100	100	93
質問9	説明は理解しやすかった	96	79	25	82	100	75	45	100	80	80	100	83	67	100	79
質問10	難易度は適切であった	85	95	25	88	85	90	73	100	100	60	90	50	40	75	75
質問11	内容の量は適切であった	81	95	75	88	85	60	73	100	90	80	90	83	60	100	83
質問12	有益な情報や示唆を与えた	92	63	75	94	100	80	91	100	100	80	100	100	100	88	90
	平均(6-12)	92	78	63	88	92	76	79	100	96	80	96	88	77	95	86
「学生自身の学習態度に関する項目」																
質問13	予習した	92	0	38	88	54	20	100	88	90	80	60	67	13	63	61
質問14	討議などに積極的に参加した	42	16	38	24	38	50	82	63	90	80	30	100	27	88	55
質問15	さらに学習を深めたいと思った	69	47	50	94	100	55	82	88	100	100	100	100	87	100	84
	平均(13-15)	68	21	42	69	64	42	88	79	93	87	63	89	42	83	66
回答者数		26	19	8	17	13	20	11	8	10	5	10	6	15	8	13

## 5. 授業評価の総括

### (1) 学士課程

今年度の報告書では、授業評価を講義科目と実験・実習に分けて取りまとめを行った。また、講義については、受講生の規模（40名未満：小規模、40～59名：中規模、60名以上：大規模）により分類し、さらに担当教員数に分けて授業評価の集計を行った。

講義については、授業方法に関する項目、講義内容に関する項目、そして学生自身の学習態度に関する項目について調査を行った。

授業方法に関する項目、講義内容に関する項目では、どの学科もおおむね満足できる評価結果を得ており、全体としては大きな問題はないものと考えられる。また、学部全体的には講義規模による明確な差異は見いだせないものの、学科によっては、規模が大きくなるに従って満足度が低くなる傾向が観察される場合や、複数教員で担当する場合に評価が低くなるケースが見られた。これらに関しては、講義規模が大きくなることに合わせた講義方法の検討や、複数教員による講義計画や方法に関する十分な打合せなど、個々の講義科目における不断の改善活動が望まれる。

学生自身の学習に関する項目では、「自主的に調べたことがある」のパーセンテージが他の項目よりも低くなっており、予習・復習をさせる工夫とともに、参考文献の例示など学生の自主学習を誘導する方法を今後より工夫していく必要がある。

実験・実習については、学生による満足度が低い回答について集計し、評価を行った。学部全体的には、ほとんどの項目において不満足と回答した学生のパーセンテージは10%未満であり、学生は概ね満足していると考えられる。例年、いくつかの学科で挙げられてきた「機器・器具の配分に関する不満」については、ガラス器具等の配分や機材に関する説明を教員側がしっかり行うことで改善されたケースがあり、成功事例として参考になるものと思われる。また、一部実験の時間設定に関して、満足度が低いケースが観察されるが、実験実施時間の見直しや学生に対する予告などを行うことで、改善をはかることが考えられた。

### (2) 大学院修士課程

大学院修士課程の講義科目においても、授業方法に関する項目、講義の内容に関する項目、学生自身の学習態度に関する項目について調査を行った。

修士課程全体としてみると、授業方法に関する項目や講義の内容に関する項目では満足できる評価を得ている科目が多い。また、前年度からさらに改善されているケースも見られ、教員の努力が伺える。

授業方法に関する項目で、視聴覚機器の使用が適切であったかという質問に対して、極端に評価の低い科目が存在するが、改善が必要であるケースと、受講生数にあった講義形態をとって（全資料を学生全員に配付している場合など）、学生の理解が得られているような、大きな問題のないケースの両方が存在するものと考えられる。

講義のスピードや内容の量に関する項目で、他の項目と比較して評価が低いケースが見られるが、これらの問題に関しては、大学院の講義の質の維持とも密接に関わるため、難易度と併せて慎重に検討しながら改善していくような真摯な努力が必要であろう。

## 資料 1

### 平成 20 年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名：\_\_\_\_\_、学科名：\_\_\_\_\_、学年：\_\_\_\_\_

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄に書いて下さい。」

A

#### 「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5: 聞き取りやすかった、4: 早口で聞き取りにくかった、3: 声が小さく聞き取りにくかった、2: その他の理由で聞き取りにくかった。（1~0はなし）

\*2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5: 適切、4: 早過ぎる、3: 遅過ぎる。（2~0はなし）

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5: 適切であった、4: 板書が読みづらかった、3: OHPが見にくかった、2: プリントやOHPは使用されなかった。（1~0はなし）

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5: していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む） 4: していなかった。（3~0はなし）

#### 「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5: わかりやすかった、4: わかりにくかった、3: シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2: シラバスについて知らなかったため、受講前に読んでいなかった。（1~0はなし）

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5: 理解できた、4: 理解できなかった。（3~0はなし）

7) この授業に興味を持っていましたか。

5: 持てた、4: 持てなかった。（3~0はなし）

\*4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？記述欄に記入して下さい。

8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか。

5: されていた、4: されていない。（3~0はなし）

9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。



5：準備されていた、4：準備不足。（3～0はなし）

10) 授業での説明は理解しやすかったですか。

5：理解しやすかった、4：理解しにくかった。（3～0はなし）

\*4に丸印をつけた人は、どのような点が理解しにくかったか、記述欄に記入して下さい。

11) 授業の内容は難しく（難易度）感じましたか。

5：適切、4：難しかった、3：易しすぎた。（2～0はなし）

\*5に丸印をつけた人は、どのような点が難しいと感じたか、記述欄に記入して下さい。

12) 授業内容の量は、適切でしたか。

5：適切、4：多すぎる、3：物足りなかった。（2～0はなし）

「学生自身の学習態度に関する項目」

13) この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか。

5：ある、4：ない。（3～0はなし）

14) この授業について、予習しましたか。

5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0はなし）

\*3に丸印をつけた人は、何故予習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

15) 復習をしましたか。

5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0はなし）

\*3に丸印をつけた人は、何故復習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

## 資料2

平成20年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名：\_\_\_\_\_、学科名：\_\_\_\_\_、学年：\_\_\_\_\_

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に [ ] の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

[ 5 : 非常に満足 4 : やや満足 3 : 普通 2 : やや不満 1 : 非常に不満 ]

A

### 「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教官の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教官としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教官は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行いました。

### 資料 3

#### 平成20年度「学生による大学院授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： \_\_\_\_\_、専攻名： \_\_\_\_\_、学年： \_\_\_\_\_

この調査票は、本農学研究科の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄に書いて下さい。」

#### 「この授業方法に関する項目」

- 1) 講義を進める速さは適切でしたか。  
5：速すぎる、4：適切、3：遅すぎる。（2～0 はなし）
- 2) 講義において板書の仕方や OHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器の使用は適切でしたか。  
5：適切であった、4：板書が読みづらかった、3：OHP が見にくかった、2：OHP は使用されなかった。  
（1～0 はなし）
- 3) 配布された資料・文献などは、授業内容を理解する上で役立った。  
5：役立った、4：そう思わない。（3～0 はなし）
- 4) 授業の形態（演習形式など）は適切であった。  
5：適切であった、4：そう思わない。（3～0 はなし）
- 5) 教員は学生の質問に丁寧に対応し、熱意が感じられた。  
5：感じられた、4：そう思わない。（3～0 はなし）

#### 「講義の内容に関する項目」

- 6) シラバスで紹介された講義の内容・進め方はわかりやすく書いてありましたか。  
5：わかりやすかった、4：わかりにくかった、3：シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2：シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1～0 はなし）
- 7) この講義全体の目標とするところをよく理解できましたか。  
5：理解できた、4：理解できなかった。（3～0 はなし）
- 8) この授業は興味をもてましたか。  
5：持てた、4：持てなかった。（3～0 はなし）
- 9) 授業での説明は理解しやすかったですか。  
5：理解しやすかった、4：理解しにくかった。（3～0 はなし）
- 10) 授業の内容は難しく（難易度）感じましたか。  
5：難しかった、4：適切、3：易しすぎた。（2～0 はなし）
- 11) 授業内容の量は、適切でしたか。  
5：多すぎる、4：適切、3：物足りなかった。（2～0 はなし）
- 12) この授業は、有益な情報や示唆を与えた。  
5：与えた、4：与えなかった。（3～0 はなし）

#### 「学生自身の学習態度に関する項目」

- 13) この授業について、予習（準備）しましたか。  
5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0 はなし）
- 14) 質問、発言、討議など授業へ積極的に参加しましたか。  
5：した、4：少しした、3：しなかった。（2～0 はなし）
- 15) 授業内容についてさらに学習を深めたいと思いましたか。  
5：そう思う、4：どちらかというと思う、3：どちらともいえない、2：どちらかというと思う、1：そう思わない。